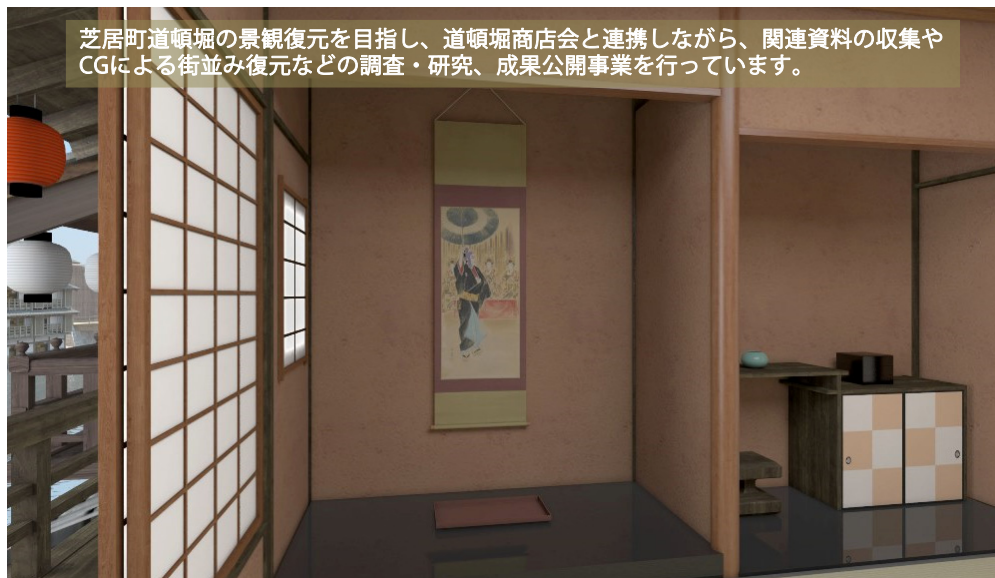


芝居町道頓堀の景観復元

芝居町道頓堀の景観復元を目指し、道頓堀商店会と連携しながら、関連資料の収集やCGによる街並み復元などの調査・研究、成果公開事業を行っています。



芝居小屋の内部空間の再現CG

活動の概要

目的	大阪の都市遺産としての芝居町道頓堀の歴史的・文化的価値の再発見と活性化
連携メンバーおよび役割	道頓堀商店会・・・調査協力、資料・情報の提供、成果公開事業の共催・協力 大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）・・・成果公開の展示会の共催・協力 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館・・・資料調査・展示会開催の協力 関西大学ならわ大阪研究センター・・・成果公開の展示
活動地域	大阪府大阪市（道頓堀、千日前）
活動期間	2010年9月～（継続中）
費用	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（～2015年3月）／サントリー文化財団（～2014年7月）／三菱財団（2014年10月～）／学内の各種研究費の助成

連携の経緯

かつての芝居町から近年、食い倒れの街へと変化した道頓堀は、大阪屈指の繁華街であるとともに、江戸時代以降の資料が集積する都市遺産でもある。角座・中座など芝居小屋五座と多数の芝居茶屋からなる芝居町の大正初年の街並みを再現したCG制作を行い、地域振興に資するため道頓堀商店連合会と連携している。大阪都市遺産研究センターで始められた連携は、平成28年度以降、ならわ大阪研究センターに引き継がれている。

解決すべき課題

- 道頓堀におけるアイデンティティの喪失に対し「芝居町としてのDNA」（商店会会長 今井徹氏）を呼び覚ますこと
- 道頓堀の都市環境の悪化に対する都市意識の向上
- 歴史と文化からなる都市遺産を活用した大阪の新しい街作り



「芝居町道頓堀 -中村儀右衛門と山田伸吉-」展での展示

道頓堀連続フォーラムの様子

大学の役割

大阪都市遺産研究センターが進めていた大阪の都市景観変遷の調査・研究を引き継ぎ、劇場大工の中村儀右衛門や舞台芸術を手がけた山田伸吉の資料群、明治期から大正期にかけての芝居番付などの明治期から昭和期にかけての資料のデジタル化とデータ・ベースの作成と公開を行った。さらに、道頓堀の景観を描いたさまざまな資料の収集・分析をもとに、明治末期から大正初年の道頓堀の街並みをCGで再現した。これは、道頓堀を東西へ移動して街並みを眺めていくもので、芝居町の記憶がよみがえるとの評価を得た。また、収集資料や研究成果を展示会として公開し、大阪くらしの今昔館・早稲田大学演劇博物館などで展示会を行った。さらに、芝居町道頓堀にかかわる記録や証言を集めたアーカイブを作成するとともに、建築図面をもとにした芝居小屋の内部空間の再現、芝居小屋と深い関係がある芝居茶屋の外観と内部空間をCGで復元する試みを進めている。

成果

- 道頓堀芝居町に関する重要史料の収集・調査・研究・展示
- 所蔵資料のデジタル化とデータベースの公開
- 対象地域（道頓堀・千日前）や大阪くらしの今昔館・早稲田大学演劇博物館など、学外での成果発信
- 大正初年頃の芝居町道頓堀の景観を再現したCGの作成と公開
- 道頓堀への川船によるアクセスと芝居茶屋内部のCG復元

今後の展望

- 「芝居町の記憶」をたどる聞き取り調査の実施とアーカイブの構築
- CGなどによる景観復元の正確性を高めるための調査・研究
- 芝居町の歴史・文化を踏まえて道頓堀の都市再生と活性化

研究者の紹介

総合情報学部 教授

林 武文
(はやし たけふみ)

専門は視覚認知情報処理。視覚を中心とした人間の情報処理メカニズムを解明し、ヒューマンインタフェースにおける情報の提示方法を明らかにすることを目的に研究を行っている。道頓堀プロジェクトのCGチームの責任者。

文学部 教授

長谷 洋一
(はせ よういち)

専門は日本仏教彫刻史。中世から近世にかけての仏師（彫刻家）の動向や造像を取り巻く環境の解明を通して、近代彫刻への転換や地域文化財としての位置づけを明らかにすることに取り組む。文化遺産の美術史的観点での評価を担う。

環境都市工学部 准教授

橋寺 知子
(はしてら ともこ)

専門は近代建築史で、近代建築の歴史や意匠、日本への西洋建築の移入過程に注目し、近年は、大阪の近現代建築の調査の機会にも恵まれ、歴史的建造物の評価や保存に取り組む。芝居小屋・茶屋の建築史的解明を担う。

関西大学 名誉教授

藪田 貫
(やぶた ぬたか)

専門は日本近世史で、社会史・地域史・女性史が主たる関心。おもに大阪とその周辺をフィールドにし、近年は、都市大阪の歴史研究に取り組む、開削以後の道頓堀の歴史的評価と資料のアーカイブを担う。